

# AI検品にクラウド活用

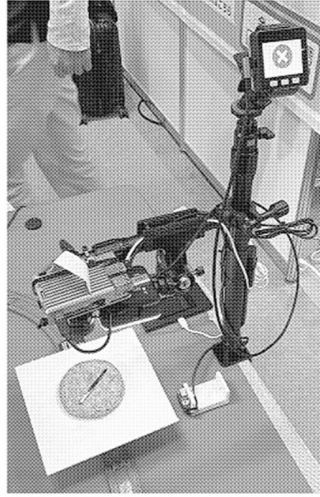
## トラスト、コスト低減

異常検知システムの  
デモ

システムの企画・開発などのトラスト（新潟県小千谷市）は、人工知能（AI）を使った異常検知システムを製品化する。工場の生産品を検査し、不良品を自動で見つける。アマゾン・ウェブ・サービス（AWS）のクラウドサービスを活用し、低コストで運用できるようにして中堅・中小の製造業のデジタルトランスフォーメーション（DX）を支援する。



## 中小工場のDX後押し



製品化するのは、小型カメラとマイコンを組み合わせたシステム。ベルトコンベヤーなどを流れる製品をカメラで撮影し、マイコンで検査して不良品などの異常を検知する。従来は作業員が目で実施してきた検品作業を省力・省人化できるほか、検知レベルの平準化にも寄与するとしている。

他社にも類似の技術はあるが、トラストのシステムは異常検知するAIモデルの構築や取得した

製造装置の動作音を監視してAIで異常を検知するシステムは、工場などで導入が始まっている

データの保存をAWSのクラウドで行うのが特徴だ。大規模なデータセンターを必要とせず運用コストを低減できる。初期導入もハードウェアの設置などだけで済み、標準モデルは数十万円程度に抑えられる。異常検知時にメールで知らせる追加機能もAWSのプラットフォーム上で簡単に付け加えられる。

システムは中堅や中小規模の製造業での導入を想定している。まずは製品の付属品の欠落など比較的大きな異常を検知するシステムとして使ってもらおう。将来は工業用製品の細かな傷など小さな

異常も見つけられるようにする。

クラウドを活用することで、企業が取得したデータを利用しやすくなるメリットもある。データセンターなどを利用する場合、取得した画像などのデータはセキュリティなどの関係上、閉ざされた環境に保存され、企業側が活用できないケースもあるという。クラウド上のデータは取り出しやすく、解析などして製造工程の効率化などに役立てられる。

トラストは2000年設立。同社はAWSのサービスパートナーに認定されている。中堅企業など向けのDX支援サービス「金のタネ」を展開し、

同サービスではAIを使って企業内に蓄積されたデータの情報検索などを簡略化できるシステムや、あらゆるモノがネット

につながる「IoT」で工場内の設備の稼働状況を見える化するシステムを提供している。

2023年3月期の売上高は約4億円。「金のタネ」などのDX支援事業を拡大し、28年3月期には売上高10億円を目指す。（鈴木遊哉）